

(3) 大塩せきができるまで

御蔵入郡奉行として、関藤右衛門がやってきました。御蔵入とよばれるのは、田島を中心とする南会津、金山、三島、昭和です。郡奉行である関藤右衛門は、村をみまわって調べたところ、どうしても大塩に水路をつくらなければならないと思いました。

計 画

- 1521年 水路工事が始まる
- 1659年 関藤右衛門御蔵入郡奉行として着任
- 1659年 領地内を巡視
農民の生活、農地の様子を調査
- 1664年 奉行関藤右衛門指揮のもと、堰の工事に着工
- 1668年 1.5kmのトンネルが完成



大塩堰の取入口（トンネル）



記念ひをかこんで

工 事

村の人手による工事が始まりました。現在の取水口より上流600m地点に洞門、そこから山ぎわに沿って水路を掘るにも、当時の道具は、ノミ、モッコなどを使った手作業による工事でした。

